

[木の家づくりから林業再生を考える]

— 設計者の立場から —

'10.12.16 / 益子義弘

日本の住まい / 木造木質空間の変容と課題

木材活用の方途点検を伏線として

1. 住まいの空間骨格の変容

■ 柱の文化から壁の文化へ

西欧の空間文化の影響や住スタイルの変化により、従来の柱や梁等の部材架構がそのまま空間の基調デザインとなる和の「真壁」構成から、それらの架構材が内に隠れる「大壁」構成へ。

↓ ↓

柱・梁 … ^{おもて} 表材から隠れ材へ

骨格材は強度と加工性が主に求められ、表に現れる化粧材的形質はあまり問われなくなる。

↓ ↓

● 国産良材の需要の後退。

在来の木軸組構法においてもこの傾向は強く、またその後進出するツーバイフォー等の木質壁式構法においては材単独の良否よりも壁耐力等への材の合成効果が求められ、材品質の意味合いが変わる。(と同時に、高度成長期の国産材価格の高騰は、外材への依存を急速に進める)



← 真壁構成と
大壁への転換の特征的な例 →



従来の真壁構成による伝統的な和の座敷
吟味された良材の構成が間の品格を生む

大壁構成による和の様式の革新を目指した吉田五十八の作
骨格材は壁内に隠れ、造作材による自由な空間構成へ向かう。

● 国産材の活用上の課題

- * 骨格材における間伐材等の活用と、そのリーズナブルな価格のための生産・供給系の整備。
- * 造作用良材の活用部位の開拓 … 現代的な住空間に適う板材・面材等の工夫や販路拡大。
材を個別に愛でる鑑賞材から、空間的な環境材へ。
- * 日本の固有な空間文化やその形質を継承し今後につなげて行く上で、良材の育成や維持活用の大切さは今なおある。

2. 住様式（生活スタイル）の変様

- （木の良材が意匠的にも生きていた）和風住様式への必要やこだわりの後退
 - * 和室の衰退（床座から椅子座の生活へ。モダンなリビングスタイルの一般化へ）
 - * 一般的な都市の住まいにおいては、和室は予備的な空間（プラスワンの空間）として持たれることが多くなり、生活に和の様式が求められるのは接客やセレモニーその他の構えの場に。（その多くは住まいの外の施設に移行してゆく）
- 日常を取り巻く家具・生活備品類のおびただしい増加 → その背景としての住空間の変質
 - * 間や余白の存在を背景にして生きていた木軸和様の構成的空間は、現代の日常を取り巻く家具・備品の増加と共に生活背景として生き難くなる。
↓ ↓
 - * 生活背景としての住空間は、無形のよりシンプルさが求められる。
（木材の持つ表情の強さや材価格面から、木質の活用部位が限定される）



生活背景としての
シンプル化に向かう
室内空間
設計・永田昌民



- この今日的な傾向や状態を踏まえた上での課題
 - * 現代の住様式の一応の安定をもとにして、新たな木質空間のありようを探り、広げること。
 - * 現代の住まいにふさわしい木材内装材やその表現の豊富化。
 - * 一般の需要に応えるリーズナブルな供給価格への努力。



- 木質空間の持つ軽やかさ、温かさ、その親和性は現代の家づくりの面での期待度（潜在的な需要度）は高く、多くの設計者がローコストでのその実現法を多様に探り取り組んでいる。

3. 住宅の性能重視化と、閉じて行く家

■ 断熱性、気密性

住まいの快適性の上で、また省資源の面から、断熱性・気密性の向上はその造りの主たる課題になっている。その今日の意味や大切さを受け止めながらも、その面の部分肥大的な過度の追及は個々の住まいを閉じ性の強い孤立したあり方に向かわせることに問題を持つ。

問題 … 住まいの閉じ性の助長と、それが結果する**近隣環境（向こう三軒両隣り）を含めたアメニティ意識**の後退。現代環境に適う適度な開放性とのバランスが課題。



住まいの適度な開放性を

■ 住空間の呼吸性の問題

従来の木造木質の住まいは、その骨格面の維持保全また生活上の空間の快適性においても、四季に向く**自然な呼吸性**がその特質としてあった。前記の気密性等の進展に伴い、日々の住まいにおける柔軟な通気・呼吸の新たな仕組みが求められる。

問題 … 地域や環境の別なく、また戸建てや集合住宅の別なく、**全国一律の機械換気の義務付け**という固い現行法のありよう。（地域や環境に即して柔軟に、また、機械よりも機敏に窓を開ける日々の習慣を大切に）



■ 木材の不燃化という課題

特に都市的な高密度環境や集合住宅において、木材の使用はその**可燃性がネック**になっている。木材の需要をより大きく広げるためには、その**不燃化への取り組み**が今日的な課題の一つである。



木材の不燃処理によって木の内装を各所に生かした空間（写真例：住宅ではなく小ホテルのロビー）

■ 木構造の強度

* 在来構法の特性とその維持

日本の住まい空間の特質を支えてきた木軸在来構法は、その改変時（リフォーム）においても間取り転換等の柔軟さや自由さを持つ。この特性の維持・展開、またこれらを支えてきた大工・棟梁等の技量の継承と再活性化。

* 伝統的構法の継承

上記と同。新築時の問題と共に、既存構造に対するより柔軟な認定法の整備。